

企業名：芝浦機械

レポート名：統合報告書についての期末レポート

1. この会社が目指す姿が理解できるか

「新生『芝浦機械』長期ビジョン 2030」では、ありたい姿を「グローバル製造業が直面するメガトレンドに卓越した技術革新で応え、社会的課題の解決と企業の価値向上を両立する」と定めており、長期ビジョンに沿って新たな時代の基幹産業の課題解決に貢献していくことが、当社の社会的使命であり、持続的価値向上の道筋であるとしている。



また、芝浦機械がこれまで軸足を置いてきた、汎用機に近い製品の物量や売上高の拡大といった薄利多売のアプローチは、国内経済の停滞やコスト競争力を有する中国・アジアの台頭などによって通用しなくなっていることが、芝浦機械の低収益性が恒常化した背景だとしている。この解決のために「新規『モノ+コト』ビジネスによる収益性向上、収益機会拡大」を掲げている。顧客の要望に応えるだけでなく、シーズを掘り起こし、社会的課題の解決に貢献する付加価値(コト)を加えた製品(モノ)を会社から能動的に提案していきたいとしている。

このような、製品を提供するだけでなく社会問題の解決や顧客の利益につながる提案もするという姿勢はこれから必要であると感じ、よく理解できた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

「比較的ライフサイクルが長く、大型の製品が中心だったことに加え、お客様に寄り添いながら、お客様ごとに異なる課題を解決するという、価値創造の基本アプローチがもたらした

さまざまな産業の幅広いお客様との長期的な信頼関係は、芝浦機械がビジネスモデルの変革を進める中においても、かげがえのない強みになる」としている。

また、芝浦機械は技術力とその基盤となる技術者を何よりも大事にしてきたとしており、そうした過程で磨き上げてきた「8つの技術プラットフォーム」を基盤にした技術力は、大きな強みだとしている。

しかし、このような強みは他の多くの企業も主張できるようなことであり、あまり差別化ができてないのではないかと感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

芝浦機械は企業価値向上のためには、技術力への投資が必要不可欠だとしており、持続性をもたそうと努力していることが理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

2020年に創設されたR&Dセンターと生産センターで技術者の育成が行われるとされており、人的資本の価値向上を達成できると思った。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

芝浦機械が持つ固有の強みをあまり、認識できなかったため、その部分をよりアピールしていくことが必要だと思った。